

AI時代に人としての信仰を生きる

山里 将之

みなさん、こんにちは！
貝塚聖書教会の山里将之です。



AI、いわゆる人工知能の発達が目覚ましく、ChatGPT（チャットジーピーティ）とか、Gemini（ジェミニ）といったサービスを使うと、要望にあった文章を作成することも出来ます。これは、牧師にとっては禁断の果实なのかも知れませんが、たとえば「マタイの福音書の2章から、クリスマス向けのメッセージを1000字程度で」と指定すると、それなりの文章が出てきたりしますから、「いやはや、これから、牧師はAIに職を追われるのでは・・・」なんて考えたりもします。

一方で、こんな時代だからこそ、人間の（本物の）牧師が、地道な聖書研究と、信徒の皆さんとの交わりの中で準備したメッセージが、かえってプレミアムもの、価値あるものとしてますます重要になって来る、ということ、なんとAIそのものが回答していました！・・・やれやれ、仕事の心配は、しばらくしないで済みそうですね・・・(笑)。

AIが作り出すメッセージは本当にすごくて、牧師から見ても感心するくらいの完成度。ただ、まさにそこが欠点でもあって、現実の人間、私たち罪人、完璧でもなく、合理的でもなく、いろいろな面倒くさいものを抱えながら、自分自身の罪にも悩みながら、他人の罪にも巻き込まれ引きずられながら生きている生身の人間に、本当の意味で「届く声」になっていないのは確かなことです。そこにいくと、牧師も、生身の人間、罪人のひとり、長所もあれば短所もある、そんな生身の人間だからこそ、寄り添えるもの、共感できるもの、本当に「届く声」を届けられるものがある、これもまた確かなことです。

ふと、イエス様のお弟子さんたちを思い出すと・・・え、こんな人が、側近だったの？・・・と、首をかしげたくなるような人も結構います。けれどもそれは、同じように、完璧でもなく、欠点だらけで、罪にまみれて生きる私たちへの、まさに「福音」、良き報せ、でもありますよね。

前回、1月21日に投稿した記事で引用した、マタイの福音書9章13節、同じ箇所をもう一度、引用し、味わいたいと思います。

『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。

わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです。

マタイの福音書9章13節、聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会

AIの時代に、人として、それも罪人として、機械ではない生身の人間として、信仰に生きる喜びを求め続けたいと願います。